

二〇一九年度 一般入学試験 問題 (国語)

次の文章は、汐見稔幸氏の『天生を豊かにする学び方』の一節である。よく読んで、後の設問に答えなさい。なお、設問の都合上、本文の一部を省略したところがある。

知識をただ覚えておくだけでは、教養・知性にはなりません。頭のどこかに間借りしているだけです。それをその人なりに血肉化していくには、考える」という作業が不可欠です。

考える」というのは、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていくことです。一見するとつながりがないように思えることも、それらを別の文脈や論理の世界に持ち出して「a テイネイ」に消化していくと、少しずつつながっていることが見えてくるから不思議です。

しばしば「I はひとつ」だと言われます。エネルギーはさまざまなかたちで現象を生み出しているけれども、これはすべてある大きな法則に基づいている。私たちの心の中で起こっていることも、外で起こっていることも、すべてつながっているかもしれない、ということですよ。

そういうことが少しでも感じられると、ものの見方も違ったものになるでしょう。これこそが、学ぶことの意味でもあるわけです。

登山で、道なき道を登っていったら、自分のいる場所がわからなくなります。ところが、あるところまで来ると、急に見晴らしがいいところに出る。そうすると、うわあ、こんなきれいなところがあったのか」と感動すると同時に、自分が今いるところが、別のかたちで見えてくることがあります。

上に行けば行くほど、周りの山や空、遠くにある滝などが見えてきます。

学ぶというのは、山を少しずつ、少しずつ登っているようなものです。登るにつれて、見える世界が少しずつ大きくなり、広がっていきます。自分が今いる場所が、**[b]** **ジヨジョ**にわかってきます。

上まで行けばそういうことがわかるけれども、途中で周りを見ても木や草しか見えなくて、自分がどこにいるかわからないものです。これは皆さんが、学んでいる状況と似ています。

学ぶにつれて、いろいろなことがつながってきて、ものごとを俯瞰ふかんして見られるようになる、**A**自分の立ち位置、さらには自分が生きている世界が見えてきます。学ぶということ、山を登ることと同じです。

いろいろな知識がつながってくると、世の中がよく見えてきます。それまで自分が経験的に知っていたことと、新しく教えてもらったことがつながって、もうひとつ高いレベルで意味を理解できるようになるからです。

そうすると、世界の見え方が変わり始めます。これが、学ぶことの醍醐味^{だいごみ}です。

今までまったく文字が読めなくて、五〇歳になって、初めて文字を勉強し始めた女性がいました。彼女は、文字を勉強してから、夕日ってこんなにきれいだったのか、と思えるようになった」と言います。

文字を読めるようになると、**B知識**への水路が広がります。いろいろなことを理解し、それらの知識がつながってきたことによって、夕日の美しさに改めて気づいた、というのです。つまり、人間の美意識は、知識とその知識への水路を少しでも身につけた自分という存在の喜びにつながっているということです。

また別の、二〇代で初めて文字を勉強した若者は、今まで平気で蹴^けとばしていた木の根っこを、蹴とばせなくなった」と言っています。

やはり、文字を学び始めたことで、いろいろなものの命に気づいたのででしょうか。知識への水路を身につけていると、自分の周りのものを **cソマツ** にできなくなるようなのです。

学ぶことによって **C自分たちを支えてくれているものが見えてきて、自分の命とそれらがつながっていることに気づくようになった**。そうすると、世界の見え方は、まったく変わってしまうというのです。そういうことがわかると、おそらく学ぶことはどんどん面白くなっていくはずですよ。

知識を身につけるのは、決して自分のためだけではありません。自分が身につけた知識を、みんなで共有することで、その知識は **D生きた知識** となっていきます。その知識をみんなで共有し、共に利益を得ていくことは、私たちが生きていく上で、欠かすことのできない知恵だからです。

それは、我らホモ・サピエンスが生き残った理由ともつながってきます。

猿から人間に進化してきた七〇〇万年ほどの間で、いろいろな哺乳^{ほにゅう}類が途中で絶滅しています。現在、歴史人類学者がいろいろな仮説を出していますが、その中で有力なのが、七万五〇〇〇年ほど前、今のインドシナ半島でものすごく大きな火山の爆発があり、その噴煙で地球全体が暗くなった。そのために一挙に寒冷化し、それまで採れていた多くの植物が全滅してしまっただけでなく、**dセイタイケイ** が大きく変わったために、ほかの動物や、多くのホモ属が絶滅した。唯一、その状況を切り抜けたのが、ホモ・サピエンスだったという説です。

生き残った理由として考えられているのが、彼らは、そこはダメだ、あっちへ行つたほうがいい」などと、お互いの利益のために、水が出るところや暖かい住みかを得られるところなどを、教え合ったのではないかということです。そのようなホモ・サピエンスの生息の痕跡^{こんせき}が世界のさまざまな場所に拡散しているからです。恐らく、お互いに助け合うことで生命を救い合っただけでしょう。

また、ヒト属は、小さくて弱いから、大きな動物とケンカをしても勝つことができません。それを殺して食べることができたのは、共同する知恵があったからです。役割を分担し、共同で動物に立ち向かう。耳のいいやつが あっちにいる！」と発見

して仲間に伝えると、**e** シュンビン^①なやつが前から攻めて牛を追い込み、腕力の強いやつが捕獲する。そうすれば、大きな獲物でも仕留めることができます。やがて言語が生み出され、それを使ってコミュニケーションをし、共同性を高めていった。そうして、上手に危機を切り抜けることにつながったのです。

共同・協力する力、一緒に困難を乗り越える力というのは、人間が人間として生き延びてきた原動力なのです。これは別の見方をすると、一緒に喜び合える力であり、この力があるからこそ、生きていて楽しいと思えるのです。これがやがては恋愛感情にもつながります。

たとえば、子どものころにやった、鬼ごっこやかくれんぼは、みんなで一緒にするからこそ楽しい遊びです。みんなで知恵を出し合って、新しい自分たちのルールを考えたなら、遊びがもっと面白くなります。ときには、年齢の小さい子が交じっていて、

「この子はおみそ」などと言ってその子だけ鬼にならないように**f** ハイリョ^②して、小さな子たちも一緒に遊べるように工夫したかもしれません。遊びは共同しないと楽しく遊べませんから、そういう力をたくさん学ぶことができます。

皆さんのような年齢になれば、友達同士でキャンプに行こうと、計画を立てることもあるでしょう。少し**g** ケワ^③しい道のりも、友達と一緒になら、**h** ガンバ^④って歩き通すことができたりするから不思議です。わずかな水や食料しか持たないで、山で道に迷ってしまったとき、それを乗り切るのに大切なのは、まさに共同力です。みんなと一緒に何かに取り組んで、互いに喜び合う。困っている子がいたら、みんなが助ける。そうしているうちに、一緒に危機を乗り越える、共同的な危機管理能力が**i** ツチカ^⑤われていきます。

この二〇〇〇〜三〇〇〇年で、文字・書物ができ、文化が伝わってきました。

文化は「この魚はこういうふうの下ごしらえをすれば、毒にあたらずに済む」とか、こうすれば風が吹いてきても飛ばない」など、長い歴史の中で生み出されてきた人々の知恵やスキルをどれだけの人々とどのように共有するかという努力の中で生み出されたものです。

文化というのは、たった一人で作られるものではなく、たくさんの人の中でつくられます。誰かが優れた芸術作品をつくったとしても、周りの人がそれを高く評価しなければ、残っていきません。ですから、文化というのは、いろいろなことを編み出す人と、それを評価して広めていく人との共同作品なのです。

その意味でも、文化の象徴である知識・学問・芸術・スキルを学ぶとき、**II** というのは、正しい文化の伝え方ではないのです。

授業というのは、先生・生徒の対一の関係で行われるべきものではなく、先生は生徒に向かって、先生は問いを投げかけるけれど、考えるのはみんなだよ。みんなが共働して考えよう」と言うべきです。

生徒たちがともに学んで、理解していく。よく理解できていない子には誰かが教えてあげて、学びを**E** 共同化^⑥していく。仲間に教えることで、その人自身の知識も整理

されて、理解が深まります。それが本来の学びのあり方でしょう。

個人的に本を読んだり、テレビを見たりして情報を入手することも大事ですが、それを独り占めするのは、自分にとっても相手にとっても損なのです。自分が持っている知識、入手した知識を周囲に伝え、みんなで共有していくことで、人間は文化的になっっていくます。

あるいは、それを元に議論し合って、友達からも貪欲どんに学んでいく。そうやってみんなで助け合い、共に賢くなっていく。わからない人がいたら、放っておかずに、みんなで教えてあげるのです。そういう姿勢が人類を救ってきたわけですから。

学ぶことを、個人主義化してはいけません。自分の知識をひけらかして、変に「**j** ジマン」し合うのではなく、共に語り合う、ともにディスカッションすることが大事です。ねえねえ、知ってる？」それはちよつと違うんじゃない？」いや、そんなこととはないよ」などと、仲間同士で言い合いながら知識を共有していく。そういうことを大事にしながら、学んでいってほしいと思います。

設問)

問一 **a** **j** のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 **I** **II** に入れるのに最も適当な表現を、それぞれ選択肢の中から一つ選んでその記号を答えなさい。

I ア 命 イ 正解 ウ 事実 エ 真理 オ 地球

II ア 僕だけが評価すればいい

イ 僕だけが評価されればいい

ウ 僕だけがわかればいい

エ 皆で共働して考えよう

オ 皆で知恵を出し合って遊ぼう

問三 傍線部 A 自分の立ち位置、さらには自分が生きている世界が見えてきます」とあるが、学びについて同様のことを言っている記述を、本文中から二〇字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部 B 知識への水路が広がります」とは、どのようなことか。本文中の言葉を使って簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部 C 自分たちを支えてくれているもの」とは、本文の二〇代で初めて文字を勉強した若者の例で具体的に言うと、例えばどんなものがあると考えられるか、一つだけ例を挙げなさい。

問六 傍線部 D に言う「生きた知識」とは、どのようなことを可能にするものか、本文中の言葉を使って、十五字以内で答えなさい。

問七 傍線部 E「共同化」と反対の意味で使っている語句を、本文中から抜き出しなさい。

問八 筆者は、同じ著書の中で、次のような偏見の例を挙げている。本文の主旨からすると、このような偏見をなくすにはどのようなことが必要だと考えられるか。あわせて二つ、一つには「つながり」、もう一つには「共有」という言葉を使って、それぞれ五〇字以内で説明しなさい。

少し前に日韓関係・日中関係がよくない時期がありました。当時、インターネット上では、ここぞとばかりに、韓国人や中国人を中傷する言説が飛び交いました。

そんな言説ばかり読んでいるうちに、すっかり洗脳されてしまい、その色眼鏡でしか物事を見られなくなる人も出てきました。こういう人を「ネット右翼」と言いますが、若い世代にもいるのです。インターネットで自分が興味のある関連記事ばかりを追いかけて、クリックして読んでいきますから、ますますそれが真実だと思い込んでしまうでしょう。